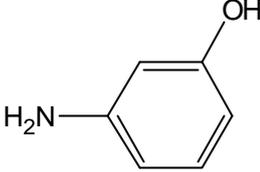


化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 34	官報公示 整理番号	3 - 675 (化審法) 1 - 21 (化学物質管理促進法)	CAS 番号	591 - 27 - 5
名 称	<i>m</i> -アミノフェノール 別名：MAP、3-アミノフェノール、3-アミノ-1-ヒドロキシベンゼン、3-ヒドロキシアニリン		構造式		
分子式	C ₆ H ₇ NO		分子量	109.13	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 不明 不純物 : 不明 添加剤または安定剤 : 不明					
物理・化学的性状データ 外 観 : 無色固体 ²⁾ 融 点 : 122 ~ 123 ²⁾ 沸 点 : 164 (11 mmHg) ²⁾ 引 火 点 : 文献なし 発 火 点 : 文献なし 爆発限界 : 文献なし 比 重 : 1.195 ²⁾ 蒸気密度 : 3.76 (空気 = 1) 蒸 気 圧 : 0.25 Pa (0.0019 mmHg) (25 [°]) ²⁾ 分配係数 : log Pow ; 0.21 (実測値)、0.24 (計算値) ³⁾ 加水分解性 : 加水分解を受けやすい化学結合なし 解離定数 : pK ₁ =4.37(25 [°])、pK ₂ =9.815 (25 [°]) ²⁾ スペクトル : 主要マススペクトルフラグメント m/z 109 (基準ピーク, 1.0)、80 (0.36) ⁴⁾ 吸脱着性 : 土壌吸着係数 K _{oc} ; 30 ²⁾ 粒度分布 : 文献なし 溶解性 : <i>m</i> -アミノフェノール/水 ; 27 g/L(25 [°]) ²⁾ アセトン、エタノール、アセトニトリルなどの有機溶媒に可溶 ²⁾ 換算係数 : 1 ppm = 4.53 mg/m ³ (気体, 20 [°]) 1 mg/m ³ = 0.220 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトでは本物質単独での有害性に関する報告はない。実験動物では眼及び皮膚刺激性並びに皮膚感作性を示すことが報告されている。慢性毒性としては、経口投与で肝臓、腎臓、脾臓、甲状腺への影響がみられている。変異原性・遺伝毒性は、*in vitro*、*in vivo*とも陰性の報告が多く、発がん性の陽性報告例もない。また、各機関において、発がん性に関する評価はなされていない。生殖・発生毒性についても影響はみられてない。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されにくい、濃縮性は低い。大気中では OH ラジカルとの反応が関与しており、半減期は数時間と計算される。環境省のモニタリングでは水質から検出されたことがある。水圏環境生物に対する急性毒性は、甲殻類に対しては非常に強い。

2) 指摘事項

- (1) 実験動物で眼及び皮膚刺激性並びに皮膚感作性がみられている。
- (2) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料 (2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank (HSDB), U.S. National Library of Medicine (2001).
- 3) KowWin , Syracuse Research Corporation.
- 4) NIST Library of 54K Compounds.